

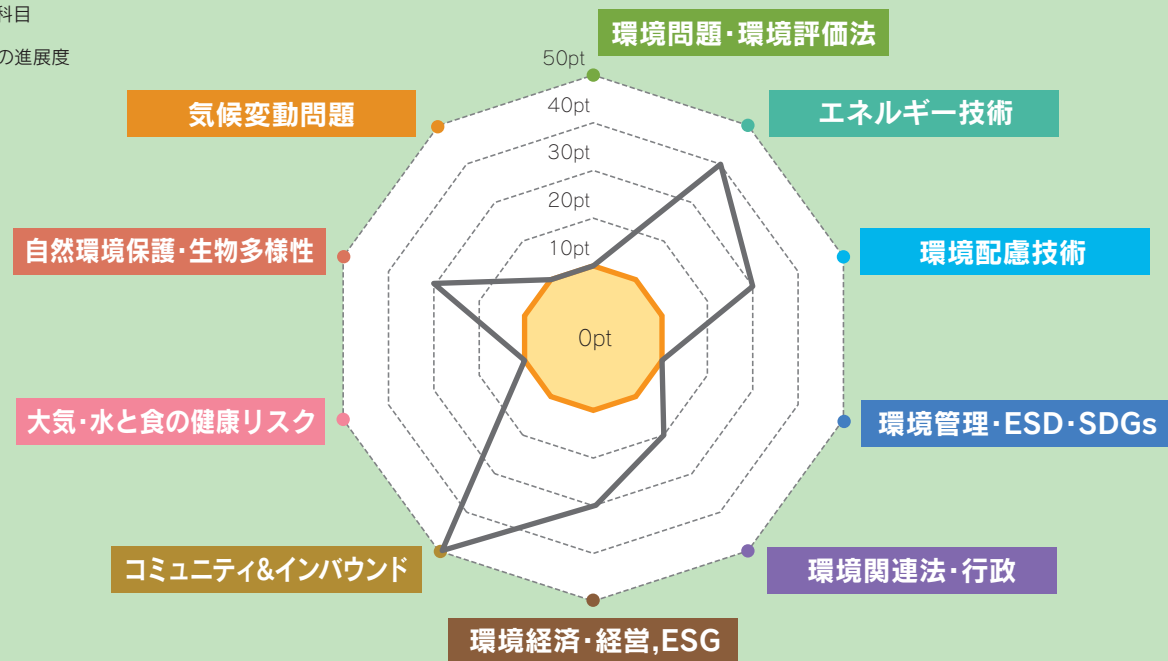
## 地域環境科学分野と各分野進展度評価例

下記レーダーチャートで受講者ご自身の進展度を確認することができます。

必修科目(各分野の概論)

選択科目

各自の進展度



## 三重大学 地域拠点サテライト

三重大学では、  
5つの地域拠点  
サテライトに  
おいても  
サイレッツの  
事業展開を行います。

● 地域拠点サテライト



受賞歴

- ◆【平成30年度】持続可能な社会づくり活動表彰『公益社団法人環境生活文化機構 会長賞』
- ◆【平成30年度】第1回エコプロアワード『奨励賞』
- ◆【令和5年度】第24回グリーン購入大賞『大賞』

## SciLets

### ビデオ講義の受講申し込み

ホームページから申し込む

<https://scienv.mie-u.ac.jp/>

上記アドレスをご参照の上、  
申込フォームに必要項目を入力し送信してください。



無料法人会員

## 連携パートナー募集中

連携パートナーには『科学的・地域環境人材』育成事業に関するお知らせやニュースをお送りさせていただきます。また連携パートナーは、受講料が割引となる場合がありますので、詳細はホームページなどでご確認ください。

『科学的・地域環境人材』育成事業についてのお問い合わせはこちらまで

## 国立大学法人 三重大学 地球環境センター

TEL 059-231-6986 FAX 059-231-9655

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

〈E-mail〉 [scilets@gecer.mie-u.ac.jp](mailto:scilets@gecer.mie-u.ac.jp)

〈WEBサイト〉 <https://scienv.mie-u.ac.jp/>

サイレッツ

検索



社会人・  
企業・行政の  
皆様へ  
ver.7.0

## 『科学的・地域環境人材』育成事業

サイレッツ  
SciLets



## 科学的知識を持つ環境人材が地域を活性化します

三重大学は地域に必要とされる「科学的・地域環境人材」を育成し、環境保全と地域振興を目指します

地域とは、地球全体に対し、皆さんの住まわれているところ＝市町村や都道府県、日本を意味します

LCA  
(ライフサイクルアセスメント)  
に基づいた科学的な  
環境評価ができる人材

ISO14001  
(環境マネジメントシステムに  
関する国際規格)  
の意義を理解できる人材

温暖化対策法、  
廃棄物処理法、  
生物多様性条約を  
理解できる人材

地域の自然の魅力を  
見出し、観光産業などに  
よってインバウンドを  
喚起できる人材

自然エネルギーや  
環境配慮技術に関する  
事例を基に学習・  
応用できる人材

気候変動枠組み条約  
など、環境に関連する  
専門知識を有する人材

環境をテーマに  
産官学民での  
異分野・異業種連携を  
主体的に促進できる人材

経済学的見地から、  
再生可能エネルギーなど  
地域の環境価値を見出し、  
地域を活性化できる人材



後援：三重県、環境省中部地方環境事務所

地域協働機関：株式会社百五銀行

岡三証券株式会社

北伊勢上野信用金庫



三重大学発

三重県発

# SciLets 三重大学『科学的地域環境人材』育成事業は 全国・世界に広がる環境保全・地域振興の仕組みです。

SciLets = Scientific, Local and Environmental “Talented Staff”

地域環境の保全と、地域に多く賦存する環境価値の利活用による地域活性化を目的とし、「ビデオ講義によるアナリスト／エキスパート認定」「異分野・異業種交流」「共同研究」などを通じて「科学的地域環境人材」を育成します。

このような方・  
団体におすすめです

- 環境保全に興味があり、地域を環境価値・環境科学により振興したい方
- 環境担当者の専門教育を行いたい企業や自治体
- 環境担当者の初任者教育をOn the Job Trainingにより行いたい企業や自治体

## アナリスト／エキスパート認定について ～「科学的地域環境人材」育成のための「講義／研究交流」～

SciLetsビデオ講義を受講することにより、アナリスト／エキスパートの認定を取得することができます。

※エキスパート認定については環境教育要件（講義受講）以外に環境実践要件を満たす必要があります。

環境専門職に従事できる人材を育成  
アナリストを目指す方

環境企画や政策を立案できるエキスパートを育成  
エキスパートを目指す方



環境教育要件（アナリストコース・エキスパートコース共通）

必修科目

基本の10分野をカバーする  
「地域環境科学概論」  
（ビデオ講義 1科目1.5時間×10科目＝15時間）

14科目の  
受講料  
14,000  
円

選択科目

4科目を選択  
（ビデオ講義 1科目1.5時間×4科目＝6時間）

理解度確認テスト（各科目ごと）

※修業年数に制限はありません。また、ご希望に応じ、5科目目以降の選択科目を受講することができます。 その場合、[受講料] 1,000円／科目  
※受講者は、受講中も認定取得後も専用ソーシャルネットワークSciLetsを利用（無料）することができ、地域の環境保全・地域振興に貢献していくことができます。  
※サイレッツにおける「1科目」とは、1.5時間のビデオ講義を指します。※団体での受講には、受講料の割引制度があります。

実践を通じて  
必要なスキルを身に  
付けます！

環境実践要件

共同研究、異分野・異業種交流（研究交流）等のOn the Job Trainingを通じ、地域企業や行政等で環境企画や政策を立案できるエキスパートとなり得る知識を身につけます。



アナリスト認定  
その後も選択科目受講可



エキスパート認定  
その後も選択科目受講可



## 三重大学『科学的地域環境人材』育成事業 開講科目一覧

※下記以外の詳細は〈WEBサイト〉<https://scienv.mie-u.ac.jp/> をご覧ください

| 分野                       | 講義名                               | 講義内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 01<br>環境問題・<br>環境評価法     | 環境歴史、<br>環境配慮                     | ●前半部／「地球環境問題」に関して、公害から環境問題顕在化の歴史とその意義、さらに地球環境問題として議論されている気候変動問題、酸性化リスク、健康リスク、生物多様性など多面的に問題、並びにその概要を解説する。 ●後半部／[環境配慮]という言葉から、何をイメージされるでしょうか。この授業では、先ず、「環境」とは何か、「環境負荷」とは何か、「環境配慮」とは何か、について説明します。次いで、私たちの生活に関連の深い、「水の循環」、「農業と環境」、「水産業と環境」、「廃棄物の現状」や「フードロス」について説明し、最後に、「カーボンニュートラルと環境との関わり」について説明します。                                            |
| 02<br>エネルギー技術            | エネルギー<br>技術概論                     | 人々の生活の利便性の向上や開発途上国の経済伸長とともに、世界的にエネルギー多消費の時代となってきました。これに伴い生産活動も活発化し、地球温暖化に代表される環境の変化が天候の異変を起こしたり、生活環境を脅かすようになってきました。本科目では温暖化やエネルギー消費の実情、エネルギーの需給や省エネルギー・再生可能エネルギーの進展の状況を紹介します。また世界的に対策が最も進んでいると言われる我が国の省エネルギー技術と国内外での実施例を紹介しします。                                                                                                              |
| 03<br>環境配慮技術             | 環境配慮<br>設計                        | ●前半部／「環境技術と環境配慮設計」は、持続可能な社会を目指し、環境負荷を低減する技術や設計手法についての授業です。再生可能エネルギーや省エネルギー技術、資源循環システム、エコデザインを中心に、持続可能な製品設計の考え方を習得します。環境配慮型技術や設計手法の動向を理解し、環境に優しいものづくりの重要性を学びます。 ●後半部／「環境配慮技術」について、農学系における、生物の生息・生育環境に視点をおいた環境配慮対策、農業土木の開発と環境配慮技術等を紹介する。講義内容としては、農村地域の環境を概観しつつ、土木構造物である農業水利施設であるため池や農業用水路の特長とそれによる環境負荷を整理し、一方でその土木構造物が整備される中で配慮される環境配慮技術を紹介する。 |
| 04<br>環境管理・<br>ESD・SDGs  | 環境管理・<br>教育啓発概論                   | 本概論では、組織体が環境管理をする上で前提とするマネジメントとマネジメントシステムについて解説する。マネジメントシステムでは、昨今の国際規格（ISO）の考え方（ハイレベルストラクチャー：ISOマネジメントシステム規格の共通構造）の概要についても説明をする。また、本概論には、平成24年10月1日に施行公布された「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」に関しても一部解説をする。                                                                                                                                           |
| 05<br>環境関連法・<br>行政       | グリーン調達、<br>グリーン購入                 | ●前半部／この講義では、企業や行政における環境に優しい調達のあり方について学びます。グリーン調達を取り上げて、環境負荷の少ない製品やサービスを優先的に調達する意義や課題を解説します。環境に配慮した調達が企業にもたらすメリットと、持続可能な社会の実現に向けた取り組みの重要性を理解することを目的としています。 ●後半部／この講義では、グリーン購入について、消費を通じた環境負荷の問題を社会全体で解決するための方策（環境政策の手法）という観点から学びます。具体的には、グリーン購入を推進するための法律・法制度の概説と、それらの法律の実施状況や今後の課題、グリーン購入にかかわる各主体の役割などの諸項目をお話しします。                           |
| 06<br>大気・水と食の<br>健康リスク   | 大気／水と食の<br>健康リスク                  | ●前半部／大気や水は、常に我々を取りまく環境要因であり、生命の維持に必須であることから、大気と水の環境汚染は人の健康に大きな影響を与える。本講義では、(1)環境基本法、(2)公害、(3)大気と健康リスク、(4)水と健康リスクについて概説する。これらのことを学習し、環境と人との関係や環境汚染が健康に与える影響について考える。 ●後半部／「大気・水と食の健康リスク概論」の後半「食の健康リスク概論」では、近年注目を集めている「食品の安全」について、そのリスク評価手法や製造者側の品質管理基準などを概説します。食品衛生という広範な分野の入口として、主に消費者が身につけておくべき食の健康リスクに関する知識とその対応策を理解することを目的としています。          |
| 07<br>自然環境保護・<br>生物多様性   | 生物多様性の<br>概要と保全                   | ●前半部／生物多様性は分かりにくい概念である。この授業ではまず生物体系、命名法、自然史系博物館の役割、生物標本のデータベース化など、生物多様性を把握する枠組みを理解する。さらに生物の進化・種分化の仕組みを概観し、生物の進化も視野に入れた生物多様性の保全について考える。 ●後半部／「どうすれば生きものたちの世界を守れるか？」ポイントとなるのは「生態系の法則性」です。それを知らずに生物多様性を守ることはできません。また、現在の私たちの社会が「持続可能であるのか」どうか、生態系の法則性を知ることで見えてきます。この講義では、生態系の法則性の側面から、生物多様性について解説します。                                           |
| 08<br>気候変動問題<br>概論       | 気候変動問題<br>概論                      | 人類は大気圏に暮らしている。従って、「異常気象や気候変動の仕組みを学ばざる者は地球温暖化問題を公で語るべからず。」と言っても過言ではない。地球温暖化を正しく学ぶための不可欠な分野が気象学・気候学である。人為による温室効果ガスの増加によって、猛暑や暖冬多、豪雨の多発、北極の海水の減少が起こるのであれば、それらはどのような仕掛けて起こるのですか？皆さんはそれにきちんと答えられますか？この科目では、これらの答えを導くための基礎となる気象と気候システムのダイナミクスの基礎を講義する。                                                                                             |
| 09<br>コミュニティ<br>& インバウンド | コミュニティ<br>& インバウンド                | ●前半部／益々重要になるインバウンドとコミュニティについて、地域振興の考え方と、三重県と日本の人口構成の推移から外国人との関係性について解説する。外国人の伝統的な生活習慣や文化に関して解説をして、日本の生活文化を振り返り、日本と外国の人々との係わり方や在り方について考える。 ●後半部／近年、社会構造が大きく変化する中、地域の活性化やグローバル化、さらに多文化共生社会を実現することが期待されている。インバウンド需要に伴う外国人受入れの言語的側面について学ぶ。主な事例として、行政機関を中心に提唱されるようになった「やさしい日本語」の背景と具体的な取組みを紹介する。                                                  |
| 10<br>環境経済・経営、<br>ESG    | サーキュラー<br>エコノミー、<br>ソーシャル<br>ビジネス | ●前半部／この講義では、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の基本概念、背景、考え方、ビジネスモデル、そして課題を解説します。リニア型経済からの脱却を目指し、廃棄物と汚染を出さない設計、製品と原材料の継続利用、自然システムの再生という3原則を踏まえつつ、企業が取り組むべきビジネスモデルの変革を考察します。 ●後半部／「地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む事業体である「ソーシャルビジネス」「ソーシャルエンタープライズ（社会的企業）」が世界的に広まっています。本講義では、ソーシャルビジネス登場された背景や国内外の事例、また、関連する概念として企業の社会的責任（CSR・CSV）について学習します。」 |